
平成 28 年度 第 2 回職能委員会

日時：場所：平成 28 年 6 月 21 日（火）18:45～19:50

場所：JIDA 事務局

出席者（敬称略）：安藤、丸山、堀越（委員長）

欠席連絡：浅香、横田、南木、吉田、国澤

クラウドデザインについて

プロダクトデザイナーのビジネススタイル（クラウドソーシングに対する考え方）メモ（安藤委員より）

新しい働き方について協会として公式見解を公表する義務があり、職能団体の存在を社会に発信する必要がある。職能の正しいあり方（本質論）を確認の上、多様な事例集（現実論）を示し解説するのが現実的対応。「職能モデル」を整理しないまま放棄したことが、アマチュアが入り込む余地と市場の混乱を招いたと言えないか。デザイナーは、デザインの社会的有用性を一般市民が理解できる言語や表現で説明する能力に欠けているのではないか。（安藤委員）

クラウドソーシングの本質は、デザインのプロセスを細分化、分業化し、それをコンペ形式の副業（アルバイト）としてデザインコストの削減を図ろうとするものだと思う。コンペではないが、グラフィックデザイン業界はほとんどこの方式であり、インダストリアルデザインにおいても大手企業はこの方式でデザインを外注する。しかし、グラフィックデザインや大手企業の場合、必ずディレクターが存在しており、外注先の選定、管理を通して成果物のクオリティを維持している。

クラウドソーシングの問題点は、単にデザインコストを下げるためにプロセスを細分化し、コンペ形式としているため、プロセス全体を俯瞰しディレクションする人材が不在の場合、デザイン成果物のクオリティが保ちにくいこと、さらに、“デザインは副業”という概念が定着することは職能の危機と言え、デザイン成果物全般の劣化、業の衰退を招くのではないか。（堀越）

- ・インダストリアルデザインの場合、グラフィックデザインと比べ、成果物（製品）の寿命が長いこともあり、制作プロセスの管理とディレクターの存在意義が大きくなる。
- ・発注主体が人材に限りのある中小企業に移っている現在、この制作プロセスの管理が出来るディレクターの養成が急務と言え、JIDA プロフェッショナル認定の本格制度化と運用も必要性が増してきたのではないか。
- ・デザイン振興会の「スーパーデザイナー講座」も同様の趣旨で実施されたはず。ディレクター養成、認定制度については、次回も引き続き検討したい。
- ・担当は、JIDA 検定、認定制度設計に携わった横田委員（部会長）が適任ではないか。

次回、職能委員会日程（8 月）はメールにて委員に図る。

記：2016. 6.24 堀越 加筆、修正がある場合はご連絡ください。